

JTAトピックス 2016年10月

第27回全日本FT大会前、宗師範総見

2016年10月23日(日)夜、JTA横浜鶴見道場において宗師範総見が実施されました。約1ヶ月後に迫った第27回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会。

選抜・推薦された関東圏41名の選手が参加し、

ハイレベルなA級男子無差別級組手出場選手によるノー・ヘッドギアの闘志あふれる組手、

A級およびB級の蹴武の型の新ルールにそった試合形式の華麗なる演武、

横浜市立大学体育会と武蔵小杉TCの調和のとれた団体戦型演武等、緊張感、熱気、気合いが溢れる総見となりました。



関東圏のみならず全国の選抜・推薦された選手への河明生宗師範による薫陶。

「選抜された日本テコンドー協会門人諸君！

全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会を1ヶ月後に控え、

武道テコンドー＝JTAの全日本大会に出場する意義付け、動機付けをしなさい。

自分の人生にとってJTAの全日本大会に出場することがどういう意味があるのかを確認し、残りの期間を有意義に過ごし、みなぎる闘志のもと、後楽園ホールに集まってもらいたい。

日本人なら誰でも知っている格闘技の殿堂・後楽園ホールで開催される全日本大会に

自分は選抜された、という誇りを胸に刻みなさい。

人生に大切なのは、「鍛錬された自信の積立貯金」である。

とりわけ若者には、絶対、必要な「強い心の積み立て」である。

現在、銀行に100万円を積立定期にしても、1年後の利息でガリガリ君も買えないが、

「自信」を持続的に積み立てて行くと、

長じてかなり満足できる「精神的利息」が諸君のものとなること疑いない。

それは「涵養された強い精神力」ともいう。

しかし、現代の若い人々は、「根拠のない自信」があるようだが、

専門家または専門的システムの鍛錬を経ていない自信は、

逆境に遭遇すると、砂の器の如くもろくて崩れやすい。

20代、30代の自殺が増加している一つの原因なのかも知れない。

諸君は、自分なりに努力した。

私は認めている。だから試合で結果を残していなくても推薦した。

日本一のテコンドー師範が君を認めたのだから「自信の積み立て貯金」をしなさい。

とりわけ社会人は、労働強化が著しい最中、持続的に道場へ通い今日を迎えている。

その効果は実はかなり高い。

健康な自分が存在し、前向きな自分が存在し、さわやかな自分が存在するからである。

職場で自分の周囲を見渡してみなさい。

自分と比べて、精神及び身体が健康なのか、前向きなのか、さわやかなのか、と。

諸君の方が、はるかに若さを保っていることに気づくはずだ。

職場と家庭だけでは精神が行き場を失うことが多い。

仕事と家庭での人間関係が、どちらもうまくいかないことが少なくないからである。

両者が行きつると、酒、博打、不倫・風俗、ゲーム等々、

幸せには百害有って一理無しの迷い道にはまってしまう。

しかし、諸君には、職場や家庭以外に、日本テコンドー協会という「ホーム・タウン」がある。

職場でありがちな利害関係を超越したピュアで心地よい人間関係がある。

これは辞めれば終わりだが、持続する限り普遍的な「ホーム・タウン」である。

ところがJTAは、宗教団体でも、学術団体でも、慈善団体でもない。

己を高めることを忘れないJTA七大精神を貴ぶ武道団体である。

この集団を牽引しているのが、

全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会に選抜された「エリート」である。

ゆえに「自信の積み立て貯金」を勧めているのだ。

だが、この「エリート」は、驕らず高ぶらず、謙虚な姿勢で、地道な努力を怠ってはならない。

諸君は、まだまだ修行の徒である。

不安や恐怖、緊張して当然なのだ。

未熟ながらも、かつての自分よりも成長している自分を観じて欲しい。

周囲よりも、自分のはるかに若いことに気づいて欲しい。

そしてより一層、成長できるように、残り1ヶ月、平常心を忘れず、がんばってほしい。